

山行報告書

受付 No.	28	登山地・ルート	谷川岳
目的	残雪の名峰と岩壁の眺望を楽しむ		
メンバー	大山		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
5・3・金	曇り	浜松=土合P～(西黒尾根)～トマの耳～杵の耳～一ノ倉岳～ピバーク地(1880m) 7:10 12:54 13:20 15:00 15:20
5・4・土	晴れ	ピバーク地～一ノ倉岳～茂倉岳～武能岳～蓬小屋～清水峠～テント場(1900m) 5:44 (通過) 6:27 8:16 9:08 11:26 14:11
5・5・日	晴れ	テント場～JP～朝日岳～笠ヶ岳～白毛門～登山口～P=浜松 5:49 5:59 6:20 7:54 9:05 11:19 11:41

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

【1日目】今年の春山は久しぶりの単独テント。積雪期はたぶん2回目。しかし営業していない小屋のテント場で張るのは初めて。計画書を書いているときは不安だったが、山行が近づくとも楽しみになってきた。

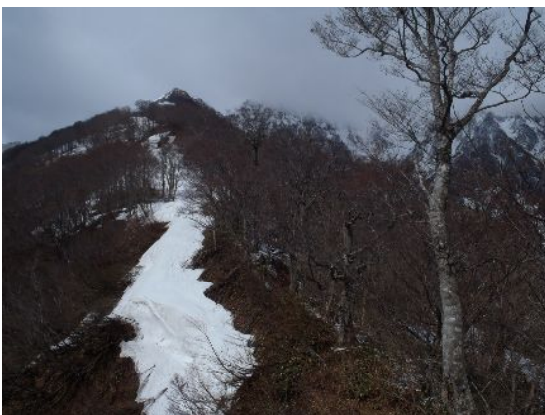
土合までは意外に遠かった。高速を下りて谷川岳に近づくとも曇り出してフロントガラスに雨!? 仮眠は1時間弱。睡眠不足で胃が重い。山を見上げると降雪直後のように山が白い。装備計画には書かなかったが、シーズン中車に積みっぱなしの輪かんを持って行くことにする。登山指導所前には数人のおじさんがいて黙ってじろっと見られた。計画書を出そうとしたらいい。車に取りに戻る。西黒尾根の登山口を入りひと上りで尾根に乗り鉄塔の下に出る。ここで7、8人の集団が休憩していた。その先の尾根は雪で、先行者あり。少し行くと傾斜が出てきてキックステップも入らないのでアイゼンを装着する。単独のおじさんの後を追うように歩く。1つ目の鎖場を越えたところで休憩していたおじさんに追いつくが、おじさんはそこで引き返すとのこと。次の鎖場のところで下りてくる別の単独男性とすれ違う。もう山頂へ行ってきたのかと思いつつ進んで行くと、岩場でトレースを見失った。ルートを間違えたかと思いつくが、どうやら先ほどの男性もこの辺りで引き返したらしく、その先はルートに注意しながら進む。雪庇の崩れかかったような細い雪稜を足元を確認しながら通過してひと上りすると広い斜面に出た。ガスで真っ白。傾斜が落ちた分雪が深くて疲れるので輪かんに履き替えていると単独男性が追いついてきた。前に出てひと言「トレースないんですね」「がんばってください」後ろを振り返ると集団もだいたい近づいてきている。しばらく輪かんでトレースを追うが、傾斜が出てくると柔らかい雪の下の固い雪に蹴り込みがきかず滑る。またアイゼンに履き替える。その間に集団に追いつかれる。なんか急に疲れてとぼとぼとトレースを追って登り天神尾根のトレースと合流、視界ゼロのトマの耳。取りあえずオキの耳まで行って先に進むか考えたが、先へ行っているトレースがあったし時間もあるので前進。一ノ倉谷側の雪庇に注意しつつあまり稜線から離れないよう進んで行くと単独の男性に追いつく。茂倉岳の避難小屋は埋まっているらしいとの情報をもらう。一ノ倉岳の登りから風が強くなり、登りきった広い山頂部は真っ白。山頂標識を目印に茂倉岳に行こうと思ったがそれらしきものはなく、なんとなく下り始めた。地形を確認しようと地図を出そうとしたところ、ピッケルに当たって飛んでしまった。思わず「待って!」と口ばしして追うが、焦って足がもつれて転倒。それでも手を伸ばしたが無情にも地図は谷の方へと舞って行ってしまった。しばし呆然。しかし風はさっきより強まった感じがするし、視界がなく方向の確認もできず身動きが取れない。選択肢はひとつ。引き返した。先ほどのおじさんが登ってくるのに会ったがおじさんは登って行った。自分も明日天気が回復すれば一ノ倉岳は登り返すつもりだったのであまり下りたくはなく、かといって平地はなく、最低、一ノ倉の谷へ飛ばされない場所のトレースを平らにしてテントを飛ばさないよう細心の注意を払いながら灌木に張り綱をくくりつけて辛うじてテント設営。とは言ってもテント半分しか平地に乗っておらず、それでも一人なら十分で、なんか最近こういうこと続くなあ～と思いながら縮こまって寝た。22時くらいまでかなり風が強く、テントが飛ばされないか心配だった。

【2日目】4時起床。朝いち外に出て「おお！」と声が出た。ガスがすっかり払われて、暗い中に正面の白い峰が浮かび上がっていた。トレースをふさいでいることもあり、そわそわしながら朝食を済ませてテントを撤収する。快晴。一ノ倉岳へと登り返して行くが、やっぱりピークがよく分らない。稜線沿いに進んで行くと少し下って向こうのピークに山頂標識がある。行ってみると茂倉岳だった。朝いちには地図もないし撤収モードに入っていたが、茂倉岳に着くまでにモチベーションが上がってきた。先へ行っているトレースもある。せっかく遠くまで来たんだし…という危険な発想も浮かぶ。どうしようか考えて、①この先は森林限界を越えており、全てルートが見渡せる、②トレースがある、③計画書の概念図の精度がいい(ウソ)、①②の理由から、地図がなくとも先へ進むことにした。一旦大きく下り武能岳に登り返し。そこから蓬峠と清水峠の小屋が見えた。高い所から見ると高低差も感じず、案外近いのでは?と甘い見通しを立てて歩いて行くと意外に高低差もあり遠かった。セツ小屋山の登りで下りてくる人と会う。笠ヶ岳の避難小屋から来たという。これでトレースの心配はない。清水峠を過ぎると日が当たって雪が緩んで歩きにくくなってきたので輪かんを着ける。そこからジャンクションピークへと向かう登りに突入。また一人降りてくる人がいた。この登りは結構こたえてきて、立ち止まる頻度も多くなり、疲れて気持ち悪くなってきた。14時を過ぎてテント適地を探しながら登り、ジャンクションピークへと続く雪稜に出たところで適地あり。力を振り絞って斜面を切って整地をし、テント設営。今日は足を伸ばせる快適なテント場ができた。夕方からガスが出た。

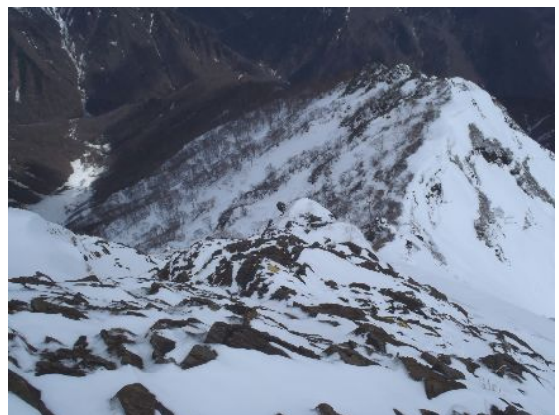
【3日目】3時半起床。今日の天気は…と外へ出るとガスで真っ白。昨日より30分早く起きたのにテント撤収したのは昨日より遅い。明るくなるとガスを透かして青空が見え、そのうちガスも晴れるだろうと出発。朝のウォーミングアップにはちょっと緊張感のある細い雪稜を渡ってジャンクションピークへ。ここからトレースが賑やかになり、尾根も広く、ガスで視界のないなか地図を持たない身にはトレースが救いだっただ。しかし吹きさらしでテント設営には向かない。朝日岳の山頂付近に4張ほどのテント。ぼんやりトレースを追っていたらトレースが消え方向を見失った。山頂に戻るとガスが晴れて90度違う方向に行く先のルートが見えた。トレースに安心して慎重さが欠けてしまった。ルートを回復。ガスもどンドン晴れて行く。笠ヶ岳の山頂では昨日トレースしたルートが見渡せた。笠ヶ岳の手前から雪がだいぶ消えたので山頂でアイゼンを外したが、しばらく行くと急斜面。キックも入らず斜面の途中で不安定な態勢でアイゼンを着ける。白毛門の直下は雪壁になっているとの事前情報だったが下り始めに雪はなく外しても大丈夫かなと思いがら下って行くと急斜面が現れた。その後もアイゼンを外すタイミングに悩みながら下る。雪がなくなってからは急斜面をひたすら下りよれよれで登山口の河原に出る。靴を脱いで足を冷やし、アイゼンなどを洗って駐車場へ。車道の登り返しが疲れた。

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者
-----	----	----	----	---	---	---	-----



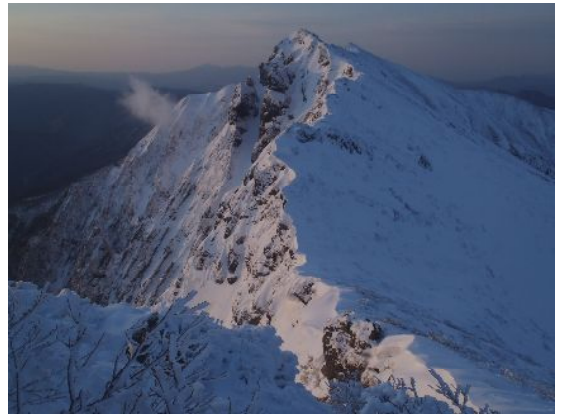
西黒尾根下部。上部はガスで隠れている。



トレースが消えた辺りの岩場を振り返る。夏のコースマークが出ていてよかった。



西黒尾根上部。5月というより北アルプスの3月くらいの雪な感じ。きれいな水が取れそう。



2日目朝。テント場にて。



トマの耳からオキの耳へ



ひと晩がんばったテント（拍手）



オキの耳から先…行っちゃう？みたいな感じ…



一ノ倉岳を振り返る。結局山頂はどこだったんだ…



武能岳から見る蓬峠、清水峠方面



テント場からジャンクションピーク方面



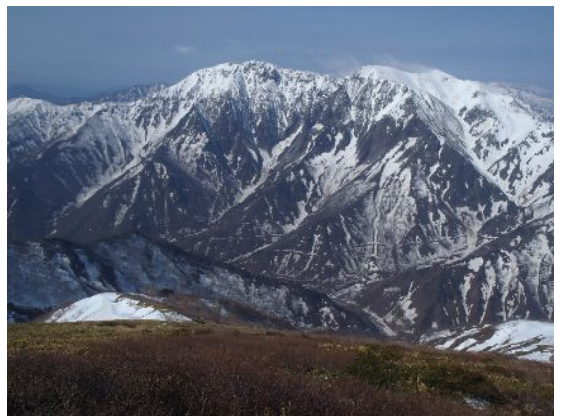
七ツ小屋山から来た道を振り返る。一ノ倉岳がだいぶ遠くなった。



朝日岳山頂。山頂標識の隣りはお地藏さんだがそれと気付かずピッケルを突き立ててしまった…ルートミスしたのは罰か



清水峠とジャンクションピーク



笠ヶ岳山頂より谷川岳